

出来形測量など学ぶ

大村工業建設工業科生徒が現場実習



TSを用いた出来形測量を学ぶ生徒

県立大村工業高校建設工業科の2年生を対象にした工事現場実習が12～14日までの3日間、諫早市や大村市内の工事現場で行われ、将来の建設業界を担う生徒らが、最新の技術や実践的な技能の習得に励んだ。

今回、協会等を通じて同校の生徒を受け入れた企業は高瀬建設(株)など10社。各社とも、職員らが親切かつ丁寧に指導し、現場の厳しさと楽しさの両方を伝えた。

諫早市内で急傾斜地崩壊対策工事を施工中の高瀬建設(株)では、生徒4人を受け持った。13日の午前中にはトータルステーションを用いた出来形測量とその計算、午後からは材料検収など実務に即した写真の撮り方を学習。生徒らは、慣れない作業に戸惑いながらも確実に課題をこなしていた。

自身も大村工業のOBという同社の荒石正三現場代理人は「現場では、自分で考えて行動することが大切。その基本的な考え方を理解してもらえれば」と話し、実習を通じた現場への理解に期待を込めた。

また、実習体験した黒田真生くん(16)は「初めて現場に出たが、皆さんカッコイイ。自分も将来は土木関係に就職したい」などと感想を話した。

今回、同校の生徒を受け入れた企業は▽高瀬建設(株)▽大起建設(株)▽西州建設(株)▽(株)松島建設▽中島建設(株)▽(株)豊恒▽(株)荒木組▽(株)朽原建設▽(株)大建▽梶原実業(株)—といった10社(順不同)だった。